

学校名	丹波市立前山小学校
-----	-----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
<p>【学校教育目標】 自治自立の力を伸ばし、みんなとともに未来を拓く前山っ子の育成 ～個に応じた支援で自己肯定感を高める～</p> <p>めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとを愛し、人とのつながりを大切にする子 ○学ぶ楽しさを感じながら、意欲的に自らを高めようとする子 ○互いに認め合い、自分も相手も大切にできる子 ○明るく元気に、自分ができるところに進んで行動する子 	<ul style="list-style-type: none"> ○居場所のある学級、なかまづくりといじめや不登校のない学校づくり ○「地域とともにある学校づくり」の推進による活力ある学校づくり・・・コミュニティスクール前山による学校経営 ○「わかる・できる」楽しさを追及しながら、知識・理解の質を高めつつ、基礎・基本の定着を図る。 ○特別支援教育の充実 ○「地域を学ぶ、地域から学ぶ」の中で、郷土に対する誇りや地域活動に積極的に参加しようとする態度の醸成。 ○地域に愛着と誇りの持てる防災教育の推進 ○「自己有用感」を伸ばさせるキャリア教育の推進

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・暴力ゼロ運動の推進 ・児童家庭理解に基づく不登校対応 ・外遊びや体験的活動を推進し、覇気のある子に育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や特別活動（児童会活動や学級活動）において、いじめが人権をふみにじるものであることへの理解を深めさせ、いじめに対して自分はどう行動すべきかを具体的に考えさせてきた。 ・児童とその家庭の状況を可能な限り把握し、寄り添うことに重点を置きながら信頼関係にもとづいた不登校対応を実践した。結果として、欠席日数30日以上の子は0名であった。 ・業間やジャンボ休みなどの時間は、職員も児童に交じって外遊びを行うことができたが、普段の休み時間に飛び出していく子は固定化している。児童の「すすんで外遊びができています」と答える児童の割合については更に伸ばしていきたい。 ・ふるさと教育、防災教育、キャリア教育などとも関わってくるが登下校や地域での生活において元気よくあいさつできることが身につくまでには至っていない。一過性のキャンペーンに頼らず、日ごろの生活の中であいさつの大切さを意識して実行できるようにしていきたい。
	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報発信 ・地域や保護者に関わられた学校行事 ・コミュニティ・スクール前山による学校経営 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより「五台山」、学級通信、保健室だより、校長通信「いつせの里より」など学校に関する情報を定期的に発信した。また、毎日下校のお知らせの放送の中で、一言ではあるが学校の様子を地域に発信してきた。また、学校HPを随時更新し、児童の様子を知らせた。 ・地域や保護者の協力を得て、感染対策をとりながら、できる限りの行事を行うことができた。 ・稲作体験など、地域に出かけての体験的な活動をしたり、学校運営協議会で様々なアイデアやご意見、人材の紹介などをさせていただき、有機農業・歴史学習・工作・クラブ活動など地域のゲストティーチャーから学ぶ機会を持ったりすることができた。 ・コロナの影響もあって、PTA活動を含め、保護者の積極的な参加を呼び掛けることができなかった。あらゆる機会に保護者が参加することには無理があるが、ここぞという時には、保護者が関わる（ともに活動する）場面が子どもにも、地域にも見えるようにしていきたい。
教育課程	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童の学習活動を保障する授業改善と基礎学力の定着 ・タブレットの学習利用の日常化と個別学習できる子の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間や週末の家庭学習で、継続的に読書活動や基礎・基本の問題、思考力を培う問題に取り組みさせて、読解力や計算力などの基礎学力の向上を図ったり、国語科の授業において、個人思考や集団思考で学習を深めるために、考える視点を与えたり、効果的な発問したりするなど、具体的な手だてをうち、主体的な学びとなるように授業改善を図ったりした。その結果、家庭学習に進んで取り組んだり、勉強にあきらめずに取り組んだりできる児童がさらに多く見られるようになった。 ・タブレットの活用では、学校内での使用、家庭に持ち帰らせての使用など、様々な活用方法に取り組んだ。その結果、児童はタブレットで楽しく学習を進めている。 ・問題の発生を未然に防ぐため、情報モラル学習を計画的に実施し、「自分も友だちも傷つかない」ICTとの付き合い方を身に付けさせる必要がある。 ・教師は、日々の授業の中では、すべての子どもが学習に参加し、発言する機会をつくるようにしているが、すべての児童が自分の考えを積極的に主張できるまでには至っていない。

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題は昔からありますが、近頃のいじめは悪質になり、表面に出ず裏でのいじめは、小学生だからといってほっておけないので3カ月に一度アンケートを書かせ、早く見つけて話し合いで処理してはと思います ・アンケートにもあるように 保護者も学校の取り組みには大変満足していると思います。地域のゲストティーチャーを招いての活動など非常に良い取り組みであると思います。 ・アウトドア派インドア派がある。大人になったら変わる事もある。インドア派の先生、よろしく、アウトドア派の先生もよろしく。 ・総じて、田舎の小学生らしく、純粋で素朴な性格の子が多く、元気な姿を目にする事が多いのは嬉しく感じている。「いじめや暴力ゼロ運動の推進」について、大人の社会でも人間関係の問題は多く、その要因のほとんどがコミュニケーション不足となっており、相手の気持ちを考えて行動するための入り口が、あいさつなのではないかと思っています。この5～10年の間に子どもたちのあいさつの数が少なくなったように感じている。防犯上の懸念があるかもしれませんが、あいさつは大切にしてほしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ放送で日頃の普通の様子が聞いていると楽しい。お昼の児童放送をたまに学校近くにいると聞けるのでそれがもっと聞きたい。 ・コロナ過の大変な中、5月の田植え、水が冷たい田に入り田植えが出来た事、4ヶ月後の9月には持った事のない稲刈りカマでの収穫作業、いい思い出が出来たのではないかなと思います。又、もちつきおいしかったとの声大変よかったです。そのワラで案山子作りをしてもよかったです。 ・コロナ感染対策が難しい中、いろいろな活動を行っていただきありがとうございます。コロナの影響により、保護者も学校行事への参加が減っており、学校での子供たちの様子を知る機会が減っていると思います。今後、オンラインでの学校行事の見学ができるような取り組みがあれば良いのではと思います。 ・校長先生の通信は、いつも保護者も楽しみにしていますし、教政先生の放送も前山小歴代最高だと思っています。ずっと続けて頂きたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・この1年でタブレットを使用しての学習が一気に進んだのではと思います。子供たちがICTを利用するあたり、今後、保護者においてもその知識の向上が必要になってくると思います。来年度においてもPTAと協力し、そのあたりも進めてもらえればと思います。 ・タブレットの使用方法が気になる所ですが、今の状況に於いても、休んでいても学督に参加できるという利点は大きいと思われまます。 ・家校学習は、低学年ほど保護者の開わり、考え方が左右すると思うので、それぞれの家庭によって差がでるのは仕方ないと思うが、少しでも学校でフォローできるならば助かるのではないかと思います。(あくまで、家庭学習は保護者の責任であると承知した上で...) ・「自分の思いをことばにする」むずかしいことですね。 ・タブレットの活用を従前からしっかり行って頂いたおかげで、リモート授業をスムーズに実施できたと思います。 ・自分の考えや主張を持つこと、またそれを発信することは難しい課題だと思います。昔は集団に個を引き寄せる力で育ってきたように思いますが、今は個に寄り添うという時代の流れもあるように思います。その中でどれだけ子どもを引っ張ってやればいいのか悩むところです。

課題教育	特別支援教育 人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 児童の特性や課題に応じた児童支援 保護者との連携、特別支援教育の啓発 関係機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回職員全体で特別支援に関する情報交流を行うとともに、定期的に校内で支援委員会を開催し、特別な支援を要する児童の状況について共通理解の上、支援方法等を柔軟に検討していった。その際には、家庭や関係機関と連携を図り、学校との信頼関係の構築をこころがけた。 保護者に対しては、入学説明会等で特別支援学級についての啓発を行うとともに、児童に対しても、特別支援学級についてや「気持ちよく、自分のしたいことをするためには」としての啓発を学校朝会で行った。 特別支援学級への入級、中学校進学についての支援体制などについては、保護者や中学校、特別支援学校、支援センターなど、各関係機関と丁寧に連絡を取り、見学や体験入学等を取り入れながら、時間をかけて十分に納得した上で決めていくことをこころがけた。 子どもの居場所づくりを第一に考え、お互いを認め合える関係作り、環境づくりに努めてきた。その時だけの対応、今年だけの対応で終わらないよう、どのような子どもの成長を願うか、保護者と共有して、長期的な視野で支援ができるようにしていきたい。
	ふるさと教育・防災教育	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者と連携した防災教育 ふるさと教育の推進(地域の教育資源の活用) 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響を考慮しつつ、防災下校、引き渡し訓練、火災避難訓練、1・17メモリアル集会など年間指導計画通りに実施することができた。 防災教育に関するカリキュラムマネジメントを進める中で、地域と連携した防災学習を進め、防災に対する意識を高めるため、地区役員の方々と共に、豪雨災害時の状況を記入した地図や資料を参考にしながら、防災下校を実施した。 地域(ふるさと)にある様々な「自然、人、もの」とのふれあいや社会体験を通して、社会を見る目を育み、将来的な自分の夢や目標を持たせていくキャリア教育を進めている。 学習において積極的に地域の自然、人、ものを活用し、地域を学び地域から学ぶ実践を進め「前山のことが好きになった」と回答できる児童の割合をかぎりなく100%に近づけるような活動を実施した。 防災に対する意識は、高いものを感じる。例えば、登下校中の避難訓練、自主的なボランティア活動など地域の中で体験させることで、実践力を育てていきたい。 地域を学ぶ、地域から学ぶ体験も計画的に教育活動に取り入れる一方でまだまだ生かしきれていない地域の教育資源を掘り起こしていきたい。

<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの情報共有等、大変だと思いますが、引き続きよろしくお願ひします。 誰もかれも少なかれ長所、短所がある。その部分をお互いが認め合う。その様な教育があれば、学校があれば、将来が楽しめる大人になれるのではと思います。 心の中は誰も見えないし、思いはことばに出してもらわないと伝わらないので、子どもにとって、保護者にとって、助けとなり、寄り処となることを願ひます。 「子どもの居場所づくりを第一に、お互いを認め合える環境づくり」は、私の職場の方針にもあげています。子どもには、自尊心を担保してあげたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 地震や豪雨災害の防災は子供と地成の大人と一緒にできたらと思う。保護者だけでなくご近所単位で。 どこにどんな子供がいるかさっぱり分からないという状況の今だからこそ防災を通して顔見知りになりたい。 火災の他、自然災害にはいろいろな種の災害があるが、何回も訓練をし、身体が即返応する様、まず訓練しかないのではないかと思う。 子どもが大人になった時、必ず南海トラフ、東海地震等心配です。田舎の不造建築は特に心配です。防災の意識を強く持って、ふる里を、日本を守る教育をお願いしたいものです。 災害大国日本ですので、意識が高いのはいい傾向だと思います。被災経験のある前山に生まれたので、経験した方々のお話を伺ったり、被災時、現場の真ただ中にいた消防団の注意すべき事などを調べたりしながら、継続して学べるといいと思います。 親でも知らない前山地域の事を子供たちが知っていた、非常に良い学びを子供たちはしていると思っています。引き続きよろしく願ひします。 川遊び、山登り、地元の学習、クラブ活動、etc..。どんなことでも1回でも多く、1つでもたくさん経験、体験することは子どもにとってとても大切であると思う。

※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育	
※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)	
領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等
※達成状況	A: 優れている B: おおむね良好 C: やや改善 D: 要改善

自己評価の実施方法についての評価
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において、学校経営についての評価計画が提案され、計画的に学校評価活動ができています。 保護者、児童、教職員のアンケート結果が参考になり、客観的に評価することができた。 自己評価においては、課題となる点も明記されているので、今後の取組に活かされていくことを期待したい。

<p>学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について</p> <p>子どもの姿が見えることが保護者や地域との信頼関係を築き、みんなでよりよい成長のために支援することに繋がる。よい面だけではなく問題点が見えることもあるがそれを共有し、同じ願いや目標を持つことが重要である。「地域で学ぶ、地域を学ぶ。」をキーワードにふるさと教育を推し進め、地域と課題を共有して取り組める活動(例えば防災教育)を取り入れ、地域と共にある学校づくりを目指していきたい。</p> <p>令和 4年 3月 8日</p> <p>学校名 丹波市立前山小学校 校長名 吉見 典彦</p>

学校関係者評価のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 出来る時に出来る範囲で出来る限りの対応をして保護者や地域と関わりを持とうとされている気持ちは伝わっていた様に思われる。他の学校と比べることでないが、他小学校ではできないことも、地域性、子どもの数もあるかもしれませんが、オープンに呼びかけ活動されていたことはよくわかりました。 「明日 また学校へ行こう!!」と思う気持ちは、本当に素晴らしいものだと思う。普通のこと普通でできることは、ありがたい事だと思う。しんどい事、困っている事、悲しい事、自分にとって普通ではない事を伝えられる大人(先生方)がいるというのは、子どもにとって大切であり、日々の生活の中で信頼できる関係を構築されているのかとも思います。